

## 4.県民の森～大生古墳群～大生神社コースガイド

ビジターセンター駐車場→大膳池→吊橋→野外活動広場  
→体験広場→大生古墳群→大生神社→オフ氏の墓  
→思井戸→ビジターセンター駐車場

集合場所：県民の森ビジターセンター駐車場



水郷潮来観光ボランティア連絡協議会

## 県民の森～大生古墳群～大生神社～思井戸コースガイド

ビジターセンター駐車場（トイレ）→大膳池→吊橋→野外活動広場（トイレ）→体験広場→子子前（マゴマイ）塚古墳→鹿見（シカミ）塚古墳→大生の七井戸→大生神社→オフ氏の墓→思井戸→ビジターセンター駐車場（トイレ） 約2時間コース

### 1. 県民の森

茨城県水郷県民の森は、平成17年(2005年)6月5日に行われた、第56回全国植樹祭のメイン会場として開園、総面積51.5ヘクタールおよび、コナラやクヌギの雑木林のほか、シイやカシなどの照葉樹が見られる貴重な平地林となっています。

総合案内施設(ビジターセンター)にはパネルで自然や森林の大切な役目を伝える展示室や、研修室があります。又年中行事として夏場の昆虫観察や植物観察、山野草展示会、野鳥観察等、季節に応じた各種のイベントがあります。

↓5分

#### (1) 大膳池

11月下旬から3月上旬まで白鳥をはじめ、カルガモ、大鷲等、毎年多くの水鳥や渡り鳥が飛来し冬の風物詩となっています。

↓10分

#### (2) 吊 橋

大膳池にかかる長さ85mの吊橋で大膳池を見下ろす景観がとても好評です。

↓8分

#### (3) 野外活動広場

平成天皇、皇后 植樹お手植えの地

平成17年6月、茨城県としては二度目の第56回全国植樹祭が開催され、天皇陛下が（ケヤキ、スダジイ、タブ）皇后陛下が（ヤマザクラ、紅梅、ヤマボウシ）をお手植えになりました。その時の情景を詠まれた、天皇御製の『残りゐる 平地の林守らむと 潮来に集ひ 苗木植ゑたり』の句碑もあります。

一面芝の広大な広場には家族連れや子供達の憩いの場であり、ステージでは不定期ながら音楽祭も開催されます。

#### (4) 体験広場

施設内には、大膳池や大生古墳群を有しており、これらの特徴を活かした四季折々の自然観察会や森林管理などの体験学習ができます。又この場所は近在市内ボランティアの活動拠点となっており、毎月土曜日を主体に草刈り、樹木剪定、吊り橋補修（塗装、防錆）等を実施しています。

↓20分

### 2. 子子前（マゴマイ）塚古墳

大生古墳群はオフ一族の奥津城（墓）といわれ、大生神社を中心として大生東部古墳群、大生西部古墳群、カメ森古墳群、田ノ森古墳群に大別されます。

このうち大生神社西側に位置する大生西部古墳群は代表的なもので鹿見塚古墳をはじめ、子子前塚古墳など20数基からなっています。

子子前塚古墳命名の謂れば熟年男子の頭骨が埋設後、長期に亘って崩壊しているのに、隣接している小児の骨の保存状態が良い事から、孫子にあたると想定された事によると記されています。



子子前塚古墳は全長71.5mで発掘調査がされており、埴輪や多くの副葬品が発見され、7世紀頃のものと推定されます。

↓2分

### 3. 鹿見（シカミ）塚古墳

大生神社大礼祭事、鹿嶋神宮からの物忌の一団が鹿を連れて訪問するため、この古墳の上から鹿が来るのを見張っていたとのことから鹿見塚古墳の名が付いたと言い伝えです。

↓10分



### 4. 大生の七井戸

七井戸とは「思井戸」「鳴井戸」「滝井戸」「寺井戸」「姫井戸」「江里井戸」「神野井戸」で、古くから生活を支える貴重な水源であり、地域の文化や信仰の対象となっていました。大生には根小屋泥層という難透水層が分布し、湧水が多かったが畑を造成する過程でこの泥層が一部壊され、現在湧水のあるのは思井戸だけとなっています。

↓5分



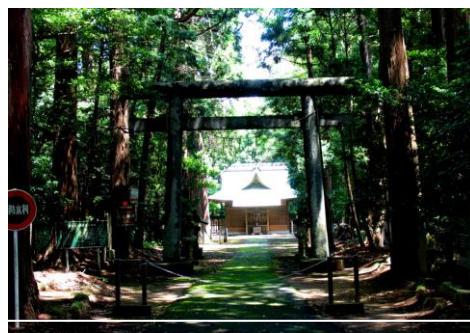
### 5. 大生神社

社伝では、オフ族の大和から常陸への移住の際、氏神として祀られたと言われます。健御雷之男神(たけみかづちのおがみ)を祭神とする郷社です。境内には多くの巨木が生育し、樹叢は300余種の植物が生育し、極相林の状態にあって生態学的にも貴重であり、県の天然記念物に指定されています。

本殿は安土桃山時代の天正18年(1590年)の造営で三間社流造、間口6m、奥行7mで地方社殿としては大きく当地方では最古の社殿建造物であり、拝殿と斎殿と共に県(潮来市)の文化財に指定されています。

最大の例大祭は、毎年11月第3日曜日に古式に則って祭事が行われた後、特殊神事の巫女舞神事が奉納される。巫女は氏子中の7歳から13歳の少女から選ばれる。

舞の奏楽は御神楽太鼓1、笛2、太鼓1、小鼓1、大太鼓1、小太鼓1の7人囃子に合わせて立ち上がり、幣と鈴を大きく上下しながら神前を一周し、これを五座ないし七座舞って終る簡単なものであるが、古い様式を残すものとして県の無形民俗文化財に指定されています。



↓7分



### 6. オフ氏の墓

大生山延命院観音寺と称し、天台宗に属し創建は大宝元年(701年)文武天皇のときで、当時この地域を支配していたオフ氏の菩提寺として建立されたのが始まりといわれています。本尊は木造観世音菩薩で平安時代後期の作と伝えられ県の指定文化財になっています。

↓3分



## 7. 思井戸

思井戸は、大生神社の御手洗池といわれており、その神泉は神社の祭礼などに使われて来ました。面積は75m<sup>2</sup>で鹿島神宮の御手洗池と同様の構築になっていて、池畔には龍神を祀り鳥居を奉納して神聖を保ち続けています。

現在は往古ほどの水量はありませんが、数十年前まではかなり大きく思井戸の東には流れ出る水が溜まる大きな池があり、水田などに利用されていました。



## 青龍宮

青龍宮の青龍は、古代中国で誕生したと言われる東西南北の四方の守護神の一つです。奈良県高市郡明日香村のキトラ古墳の壁画には、埋葬者を守るために、東壁には青龍、西壁には白虎、南壁には朱雀、北壁には玄武といった四神（靈獸）が、それぞれ描かれています。

この青龍宮は、東方の守り神が祀られた石祠です。



↓ 50分（来た道を帰る）

ビジターセンター駐車場